

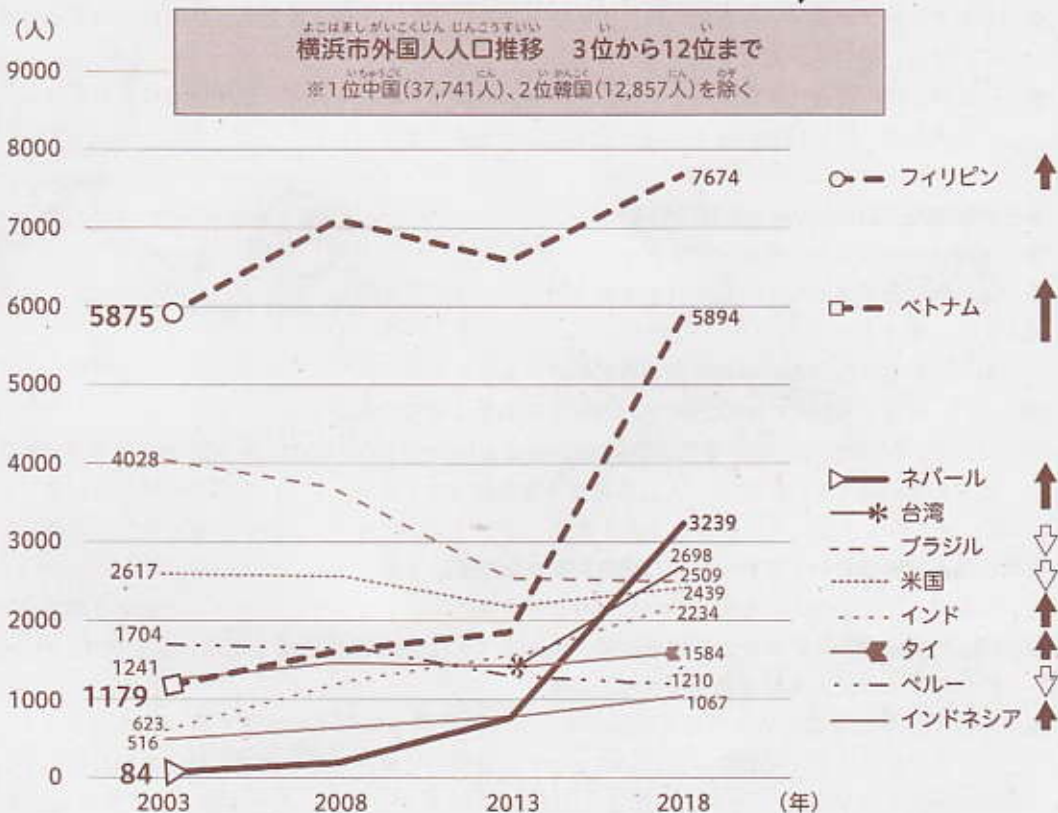


ラウンジ QR コード

ひと こうき さまざまな人と交差するまち

街を歩いていると、いろいろな「ことば」が聞こえてきませんか？
外国人の出身国はこの5年の間に大きな変化がありました。

金華 (JIN HUA) です。
私の話を聞いてください。



ラウンジアンケート 始めました！

横浜市には152か国の国と地域からの外国人が住んでいます。青葉区では93か国です。

あなたは、さまざまな分野で外国人が活躍し、貢献していると感じますか？

- 外国人が地域社会に溶け込むのは、むずかしいと思いますか？
- 文化、宗教、生活習慣などの違いに根差した偏見が、あると感じますか？
- 外国人がこれからも活躍してほしいと思いますか？

ウェブ上で皆さんからのご意見を集めています。右側のQRコードを読み取って、ぜひ参加ください。

*ラウンジのホームページからも参加できます。



アンケート QR コード

横浜市青葉国際交流ラウンジは、横浜市の委託を受けてNPO 法人横浜青葉国際交流の会が運営しています。

こんにちは！今年4月から勤務している新人スタッフの佐々木です。相談窓口で活躍している先輩スタッフの金華(Jin Hua)さんを紹介します。

On-The-Job Training とって経験豊富な担当が対応しているのを見ながら新人スタッフは経験を積んでいきます。適格な説明をする先輩が外国人だとはい全く気づきませんでした。ラウンジはすでに、多文化な職場だったのです。いろいろと聞いてみました。



言葉について

佐：日本語はどうやって習いましたか？

金：出身は中国東北地方の瀋陽 (shen yang) です。通っていたのは朝鮮学校で、第一外国語は日本語でした。中学校、高校、大学と日本語を習いました。家では中国語、学校では朝鮮語、外国語として日本語を身につけました。中国の文章は、今も漢詩をたくさん引用します。学校では、中国の漢詩を習わなかったので引用文を使う表現はうまく書けません。

* 日本のみなさんは、文章を書く時に、どれくらい古文や諺などを使っていますか？

金：中国では大学卒業後、在瀋陽大韓民国総領事館で秘書として働きました。朝鮮語と韓国語は歴史の中で、少し違いができています。最初は、慣れずに戸惑いました。

金：日本語の読み書きは得意でした。大学でも点の取れる学科でしたが、話す機会はありませんでした。日本人と結婚し日本に来たので、話す機会が増え、私の日本語の今があります。

ふるさと瀋陽 (shen yang) について

佐：瀋陽ってどんなところなのですか？

金：鶏の頭の所ですね・・・分かりますか？

佐：え？ 頭？ トサカ？

* 中国地図を広げる。なんと！おんどりがいます！

金：はい。雄鶏の頭に近いです。東北地方の最大規模の都市です。

歴史上、清の時代の王宮—瀋陽故宮 (shen yang gu gong) (北京故宮の縮小版) があります。冬はマイナス30度になるほど、とても寒い所です。830万の人口のある大きな町です。

「おんどり」に見えますか？



日本に住んでもう長いですね・・・(2007年から在住)

佐：日本では、中国の人との付き合いはありますか？

金：WeChat (微信) をつかっているの、会わなくても、どこにいても繋がっています。それに、どういうわけか、中学時代の友人が何人も関東周辺に住んでいます。

金：中国では今お年寄りもスマホを使います。スマホを使って電子マネーで買い物します。どんな田舎の小さな店でも、スマホで払えます。それに通信料が格安です。経済の仕組みが国全体で一挙に変わり始めています。

* Wechat は Weibo とともに中国最大人気の SNS の一つです。今や中国人はこういったアプリでメッセージを交換するだけでなく、生活のさまざまな場面で利用されています。世界中とつながっているのでしょうか。

* 金華さんは、窓口スタッフとして決まった曜日に勤務しています。そして、日本人スタッフと同じ業務を行っています。そのほかに通訳ボランティアとしても活躍しています。

横浜市市民通訳ボランティアとしての活動について

佐：どのような場面で通訳をしていますか？

金：小学校や中学校での個人面談、家庭訪問、日本に来たばかりの子どもたちのための授業補助通訳などをやっています。

佐：困ったことはありますか？

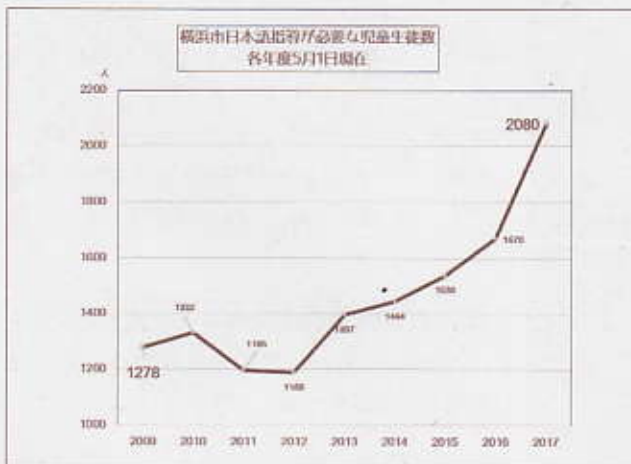
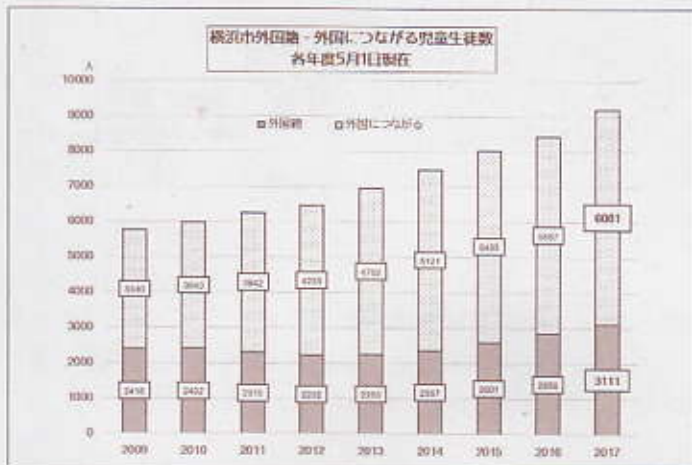
金：中学校の国語の授業で生徒の横に座った時です。誰かの文学作品についての授業でした。文学作品を通訳 (翻訳) をするのは、難しいというより、無理です。助けることができず、本当に困りました。子どもはついて行けません。横浜市では専門の先生がいる「ひまわり」という日本語支援拠点施設が昨年9月に中区に出来ました。子どもたちの母語も大切にしたいです。

「ひまわり」のようなところが近くにできるとよいと思います。
 *青葉国際交流ラウンジでも毎週水曜日に子どもたちに日本語学習支援を行っています。

*ひまわり <http://www.city.yokohama.lg.jp/kyoiku/kyoikukatei/nihongoshido-tebiki/pdf-1tebiki/1nihongoshido.pdf>

地域でのつながり

金：昨年^{ことぞと}は自治会^{じちかい}で班長^{はんちやう}をやりました。近所^{きんじよ}に外国人^{がいこくじん}の家庭^{かてい}が何軒^{なんけん}あり、子ども^{こども}も同士^{どうし}も付き合い^{つきあひ}があります。居民委員会^{じゆんいんかい} (ju min wei yuan hui) というのが中国^{ちゆうごく}では自治会^{じちかい}にあたります。役割^{やくわり}は日本^{にほん}とは違う^{ちがう}ところもあります。自治会^{じちかい}の他に^{ほか}にPTA^{ぱた}の役も経験^{けいけん}しました。



グラフ出典：日本語指導が必要な児童生徒受入れの手引



先輩から

ラウンジはすごく雰囲気が良く、みんな平等でお互いに助けながらやっているとこの感じが強いです。今までの秘書の仕事では、言われたことをすることが多かったのですが、今は自分から考えて提案が出来る、新鮮でやりがいがあります。また外国人としても働きやすい所です。やりがいがあるのでずっと働き続けたい。
 分からないことは、何でも遠慮せず聞いてください。思ったことは迷わず発言して、提案してください。

新人から

先輩に初めて会った時は日本人だと思いました。自然な日本語で、後で中国人と聞いてびっくり。日本語、韓国語はネイティブレベル、そのうえに英語も勉強中だそうで、「すごすぎる」のひとこと。いつもていねいで、分かりやすい仕事の教え方に感謝しています。
 ラウンジでは、先輩を含め色々な国の人たちと関わりながら仕事をしています。毎日なにかの発見があり、刺激もいっぱい。まだまだ戸惑うことも多いのですが、先輩のようにいつも笑顔でテキパキと仕事をこなせるようになりたいです。どうぞよろしく。

国際児童画展 20周年記念冊子・・・こんな展開が始まりました。

子どもたちの絵が伝える、つなげる、

その時々^{ときどき}の世界の出来事^{できごと}や世の中^{よのちゆう}の様子^{ようす}を子どもたちは描^{えが}いています。その絵^{えが}が毎年^{まいとしつ}積み重ね^{かさ}られて20年たちました。この絵^{えが}から何かを感じて欲しいと願い、私たちは冊子^{さんし}として世に送り出しました。子どもたちの絵は9.11も3.11も乗り越える不思議な力^{ちから}を持っています。昨年^{ことぞと}から縁^{ゆかり}があって、熊本震災復興チャリティへ子どもたちの絵^{えが}で協力を始めました。今年も貸し出します。子どもたちの絵が各地をつないでいってくれそうです。



熊本の方たちと貸し出し用の絵を選びました。

手に入られる場所：地区センター、図書館、ケアプラザ、コミュニティハウス
 青葉区内の東急田園都市線の各駅、地下鉄あざみ野駅



だぶんかきようせい みちか
多文化共生が身近になってきました。
 だようか じゅうみん
多様化するすべての住民に
 し あたり しりょう
知ってほしい新しい資料です。

本誌ラウンジで借りることができます。
 す。(一人2冊2週間)
 どうぞラウンジに来てご覧ください。



What the Frog Saw 英語版 出版社: My World Stories Alice Isupova (イラスト)

*イラストを描いたのは、ラウンジで日本語を勉強しているアリサさん Alice Isupova 106号掲載。
 中国のことわざをもとに書かれた絵本シリーズの一冊。「井底之蛙」(jing di zhi wa) (中国語)「井の中の蛙大海を知らず」のお話です。元は中国の話ですが、明るくかわいいイラストで、世界中の子どもたちが楽しめる絵本になっています。



外国人のためのボランティア活動のしおり 発行: 横浜市国際交流協会

日本語(ルビふり)、英語、中国語(簡体、繁体)

オリンピック・パラリンピックやラグビーワールドカップのボランティア募集が始まりました。外国人がボランティア活動へ参加する前に読んで欲しい一冊です。ボランティア活動が盛んな国もボランティアの習慣がない国もあります。活動のやり方も様々です。違いを認めあってよい活動ができるとよいですね。



国際児童画展のあゆみ—20周年記念誌 発行・編集: 横浜市青葉国際交流ラウンジ

1996年から始まった国際児童画展には35か国5000枚を超える絵が集まりました。子どもたちの絵から、20年間に起こった世界の出来事や暮らしの伝わりが伝わってきます。絵に表れる子どもの素直でまっすぐな心に見る人は驚き、感動するでしょう。

日本語をならいたい人!



●おとなのための教室(高校生以上)

日本語教室 会費: 300円/月(どのクラスも)

水曜日 10時30分~12時
 木曜日午後6時30分~8時
 土曜日 10時~11時30分
 *水曜日・土曜日は保育あり
 ひとり一回150円

●学習補習教室

外国につながりをもつ子どものためのクラス

(無料) 水曜日

午後4時~5時30分(小学校入学1年前~小学生)

5時30分~7時(中学生)

●ラウンジでは

次の曜日に外国語でお答えするスタッフがいます。

水曜日午前中: スペイン語 中国語

土曜日午前中: 韓国語 火曜日: 中国語

英語では、いつでもお答えします。

同級生は外国人!? 多文化共生を考えよう

吉富 志津代(監修) 松島 恵利子(著) 出版社: 汐文社

外国につながりを持つ子どもたちのエピソードを紹介。同級生がほんの少し自分と違ったら、どう感じますか? 違いを知るの、世界が広がり豊かになることです。目をそむけず、たくさん話しましょう。そうすれば、本当にみんなが住みやすい世界になるはず。 「違い」は「豊かさ」であることを、子ども達に伝えたい、そうした著者の思いが詰まった絵本です。

第1巻 「どうしてルールが守れないの?」

第2巻 「どうして頭にスカーフを巻いているの?」

第3巻 「日本がきれいなのかな?」



編集後記

10年前と比べて、横浜市に住む外国人は人数も比率も大きく変わり、取り巻く状況も変化しています。地域に共に暮らすことを理解し、お互いにとって住みよい一緒に住みたい街を目指してラウンジは活動を広げていきます。皆さまからのご意見を待ちしています!



●開館時間 午前9時~午後9時 日曜日・祝日 午前9時~午後5時
 = Office hours: Monday thru Saturday 9 a.m.-9 p.m. Sundays & Holidays 9 a.m.-5 p.m.

●休館日 毎月第4日曜日および年末年始 = Closed on the 4th Sunday of every month & New Year holidays